

3月議会一般質問のご報告

第1問「日展巡回展について」、第2問「小中学生のスポーツ推進の環境整備」、第3問「周辺自治体とタイアップした観光推進」を取り上げました。



小林陽子
議会一般質問

QRコードから一般質問の録画放送にリンクできます。

1. 「日展巡回展について」

(問)日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の5部門で構成される日本美術界の最高峰と位置づけられる展覧会である。市としての意気込みは。

(宮澤市長)日展が安曇野市のような地方の中小都市で開催されるのは極めて稀で、全国にPRするよい機会。市制15周年記念として、市及び市教育委員会は日展安曇野展を共催の準備をしている。

(問)「文化を大切にすまち」として安曇野市の存在意義を高めるチャンスでは。

(市長)芸術、文化を大切にすまちを、全国内外に発信をするよい機会だ。大きな企画展を行う経験は、今後の安曇野市の文化行政に役に立つ。安曇野文化財団とともに、郷土作家の作品にも光を当て、民芸芸術や伝統行事など、芸術文化の推進を図っていく。

(問)美術館や記念館がたくさんあるが、いつもガラガラだとの声もきく。市民や子どもたちが足を運んで、芸術に親しんでもらう工夫は。

(市長)芸術文化の芽は、小さいときから伸ばしていく必要がある。教育委員会とも連携を取りながら進めなければいけない課題だ。

→残念ながら日展巡回展はコロナ禍にて中止となりましたが、芸術文化の推進に関する意見交換が深まり、今後も継続フォローする所存です。



芸術の溢れるまち

2. 「小中学生のスポーツ推進の環境整備」

(問)「たくましい安曇野の子ども」を掲げている安曇野市では、学校での部活動のほか、スポーツ少年団等の活動も積極的だ。しかし、部活動では少子化で活動自体が成り立たず、教職員の働き方改革により、指導教員の確保が困難になっていると聞いている。全国的にも、行き過ぎた指導が生む体罰やパワハラの問題に加え、熱中症対策も求められるなど、スポーツ指導を取り巻く環境は昔と比べて大きく変わってきている。安曇野市としてたくましい子どもを育てていくため、市としてどう取り組むのか。

(市長)トップアスリートによる中学生向けのバレーボール教室や、アスリート体験授業等で、選手育成強化やスポーツ競技の活性化を図る。市の子どもたちの体力測定結果が、県や国の平均値より低いことは遺憾であり、問題だ。「たくましい安曇野の子ども」を育むため、スポーツ振興を積極的に行う。

(問)スポーツ事故への対策はどうか。学外での子どもたちのスポーツ活動において、学校での部活動と異なり、施設管理責任、指導責任、本人の責任等の責任の所在が曖昧になりやすい。10年ほど前の県内での柔道指導時のスポーツ事故では、子どもの脳に重い後遺症が残り、民事裁判で3億円近い損害賠償が発生するという事実もあった。再発させない取り組みを、安曇野市では、どう考えているのか。



安心して取り組める
環境の整備を

(西村教育部長)スポーツ少年団等社会体育への加入に比べ、中学校の運動部への加入状況は低い。生徒の安全等への対応が必要で、認定育成員が適切な指導を心がけている。スポーツ少年団はスポーツ保険、部活動は共済に加入している。令和2年度から運用開始の市のスポーツ活動指針を策定中だ。

(問)子どもを取り巻く環境変化を踏まえ、生涯学習や社会教育として具体的な推進も検討すべきでは。

(教育部長)トッププレイヤーから指導を受ける教室等に加え、体験型講座の開催を予定している。

→ 様々な面から「たくましい安曇野の子ども」の育成を取り上げ、フォローします。

3. 「周辺自治体とタイアップした観光推進」

(問)コロナ禍で観光は難しい時期となったが、県営松本空港の国際化が実現した場合の安曇野市へ波及する経済効果は。周辺自治体と連携し、一層の観光推進の強化を図るべきでは。

(鎌崎商工観光部長)県は10年間の取り組み指針で国際定期便、国際チャーター便の増便を目標に掲げた。オリパラや大阪万博で、本地域へも訪日外国人旅行者の増加と経済効果が見込まれる。計画的な取り組みが必要だ。

(問)市のリーダーシップで、本市の資産を活用して観光推進すべきでは。

(市長)本市の山岳観光、天蚕、わさび、湧水等を生かし、県や広域観光団体と連携しつつ情報発信に努めたい。市はバックアップする。

→ コロナ禍の厳しい状況が続いておりますが、収束後を先取りした議論も必要です。



周辺自治体との連携を

「コロナ禍に直面して」

今年の年明けには、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催など希望に満ち溢れていました。ところが一転、先行きの見えないコロナ禍に私たちの誰もが直面することになりました。今まで経験したことのない事態に恐れ、知らず知らずの間に心配や不安から心のバランスを崩す、あるいは怒りの矛先を誰かを攻撃する行動に向かうことに、注意をしなければなりません。

私たち人類、私たち日本人のありようが問われているように思います。生活面では、加熱し過ぎた消費活動への戒めがあります。経済面では、生産の効率化を優先して、様々な食料品・生活用品・工業製品を海外での生産に依存してきたことへの反動があります。時代の移り変わりのスピードが加速する一方、ものや情報に支配されてきた心のあり方への疑問が、ふつふつと沸いてきました。

私たちにとっていま一度、人間らしさや地に足のついた生活とは何かを考える、そんなよい機会ではないかと思うのです。皆さんはどのようにお考えでしょうか。